

1843(天保 14)年～1909(明治 42)年

1. 狭山市とのかかわり

高麗郡上広瀬村(現・狭山市上広瀬)の名主清水寛一の長男に生まれる。幼い頃から才能に優れていた。漢学や国学、和歌、書道を学ぶ。20歳で上広瀬村の名主役を継ぎ、郷土の発展に尽くす。



清水宗徳(明治20年頃)

2. 主な業績

① 養蚕の奨励

水富地区は江戸時代から織物が盛んで、斜子織(ななこおり)の産地であった。常に村の活性化に心を置いた宗徳は、蚕糸業を奨励、入間川原を切り拓いて桑の苗木を栽培させた。

② 器械製糸工場の設立と斜子織の発展



ななこ織を
広瀬の浪のあやなる

斜子織の歌碑

製糸場の設備等を研究し、埼玉県内初の器械製糸場を設立。妻のせき子は子女数名を連れて、前橋の関根製糸工場に見習いに行き、仕事方法を熱心に学んだ。斜子織は川越町から東京に送られ、「川越斜子」として売られていた。しかし、「斜子織の本場は広瀬である」と主張した宗徳は品質改良に取り組み、「広瀬斜子」の名でブランド化し販路の拡大に努めた。

※昭和期になると、器械製糸から自動糸繰機による機械製糸になった。

③ 学校の開設

宗徳は教育の大切さを早くから説き、1872(明治 5)年の学制発布に先立ち、狭山市内で最初に「広瀬郷学校」・「幼童学校」を設立している。

④ 県会議員・国会議員

1879(明治 12)年、県内初の県会議員選挙で当選し2期務める。1890(同 23)年、第1回衆議院議員総選挙で国会議員となり1期だけ務め、後進に道を譲った。

⑤ 鉄道の敷設

交通機関の必要性に強く感じた宗徳は、1895(明治 28)年、川越駅(現・本川越駅)から入間川・所沢を経て国分寺駅に至る川越鉄道を開通させた。これを契機に、入間川町は物資の集積地として発展。1899(同 32)年、入間川と飯能間を結ぶ入間馬車鉄道を敷設する。また、馬車鉄道沿いに牧場を構え、ジャージー種の飼育から牛乳販売まで一貫して行った。



墓石の下
のレール

3. 特筆

宗徳は俳諧に秀で、不朽軒義同(ふきゅうけんぎどう)と号し、地域に俳諧を弘める。代表作は「伸びすぎて 取り残さるる 土筆かな」である。1909(明治 42)年、67歳で没し、上広瀬の共同墓地に葬られた。台座の下には馬車鉄道で使われたレールが敷かれている。

〈参考文献〉『清水宗徳翁小伝』